

折尾まちづくりビジョン1. 提言 (P4)

③ 歴史的建造物の保全と活用に関する提言

歴史的建造物を活用したまちを目指します。

- 現在の折尾駅舎は、文化の保存を主目的とする地域の人々が活用できる「生きた施設」として保全することを優先する。
- シンボルとなる部材や歴史を伝える部材を活用し、歴史性の継承に優れた、堀川及び現駅舎に最も近接した南口駅前広場での保全を望む。
- ねじりまんぼを含む東側三連の保全・活用を図る。
- ねじりまんぼの文化と技術を継承できるような方法で、貴重な土木技術の伝承が図られる場所に保全し、活用を図る。
- その他の歴史的建造物については、地域で長い間共有化されたものは、できるだけ現状に近い形で保全に努めるが、今後、所有者等の意向を十分に確認して取り扱う。

しかし

折尾まちづくりビジョン《案》では、「文化財指定を受けるよりも」と明記されていた。

- 現在の折尾駅舎は、文化の保存を主目的とする「文化財指定」を受けるよりも、地域の人々が活用できる「生きた施設」として保全することを優先する。

折尾まちづくりビジョンのとりまとめ（策定委員会の会議状況）

- ◆ワークショップのような会議で、突然、「折尾まちづくりビジョン<案>」が配布され、折尾駅舎は、『文化財指定を受けるよりも』と明記されていた。
- ◆策定委員会や運営委員会で『文化財指定を受けるよりも』の削除を求めたが、「等」という文言1文字の加筆すら認められなかった。
- ◆総会場で、歴史建造物部会員や、専門部会報告会で歴史建造物部会の専門家（尾道教授）の話を聞いた人の証言により『文化財指定を受けるよりも』を削除することができた。

折尾まちづくりビジョン 6. 地区の問題点 (P19)

③ 歴史性の高い地域にもかかわらず地域の歴史や文化が活かされていない

地域の歴史や文化の活用不足

希少価値や文化価値の高い施設など、地域の歴史に根ざした良い物が活かされていない。

- 良い物が活かされていない
 - ・ 歴史が活かされていない
 - ・ 住む人に誇りを与えていない
- 雑然として美しくない街なみ
 - ・ 来街者に感動を与えていない

【折尾地区が目指すもの】(P27)
住む人に誇りを、来る人に感動を
歴史遺産を活かしたまちづくり

歴史建造物部会の専門家は、
・ 提言の内容は知らされず、
・ ビジョンの報告会にも呼ばれず、
・ ビジョンの冊子すらもらっていない

3. 折尾まちづくりビジョン策定の経緯 (P9)

本ビジョンは、平成 18～20 年度にかけて、以下のような取り組みを経て策定したものです。

② 平成 19～20 年度

「まちづくりの主要テーマ」について、関連する分野ごとに、「にぎわい創造部会」、「街デザイン部会」、「歴史的建造物部会」、「生活・安全部会」の4つの専門部会を設置しました。以下に示すような、各部会での検討を経て、おりお未来 21 協議会として、折尾まちづくりビジョンの最終とりまとめを行いました。

開催年月日	内 容
平成 19 年 5 月 14 日	○4部会合同専門部会・第1回専門部会（別表参照）
平成 19 年 6 月～20 年 2 月	○各専門部会での検討（別表参照）
平成 20 年 3 月 7 日	○専門部会検討状況報告会【中間】
平成 20 年 3 月～4 月	○各専門部会での検討（別表参照）
平成 20 年 5 月 15 日	○専門部会報告会【最終】
平成 20 年 5 月～6 月	○折尾まちづくりビジョンとりまとめ
平成 20 年 6 月 24 日	○折尾まちづくりビジョンの報告（策定委員会）

平成 20 年 6 月 27 日 ○折尾まちづくりビジョンを、北九州市に提出

歴史建造物部会での検討（会議状況）

- ◆北九州市教育委員会文化財課の職員が、折尾駅舎の価値を説明。部会委員から「折尾駅舎は残さないといけない！」との声があがった。
- ◆文化財課の職員が説明している時に、上司？が立ち上がり、文化財課の職員を指をさして、まるで桐喝のような雰囲気ですべてを制御した。その後、文化財課の職員は、自ら発言をすることができない、オブザーバー席に移された。
- ◆折尾駅舎を残すとも残さないとも検討されない、異様な雰囲気の会議になる。
- ◆部会員より、『こんなのは会議ではない。折尾駅舎を1%でも残せる可能性があるのなら、文化財指定も含めた方向で会議を進めるべき』と要望があり、その方向で会議が進められた。

歴史建造物部会の提言<案>は、誰が作成したのでしょうか？

- ・ 歴史建造物部会の、専門家ではありません。
- ・ 策定委員会、運営委員会、役員会でもありません。
- ・ 北九州市でしょうか？！
- ・ 教育委員会でしょうか？！